

第1編 序論

第Ⅰ編 序論 用語解説

ページ	用語	解説
4	ローリング方式	複数の年度にまたがる計画を策定するための一つの方法のこと。施策・事業の見直しや部分的な修正を、毎年転がすように定期的に行っていく手法である。
7,24	自然増減・社会増減	人口動態に関する統計において、自然増減は出生・死亡による人口の増減をいい、社会増減は転入・転出による人口の増減をいう。
8,24	昼夜間人口	ある地域に常住する人口を夜間人口、昼間だけ現存する人口を昼間人口とし、夜間人口と昼間人口を総称したもの。昼間人口と夜間人口の比較で都市の特性を把握する。
10	労働力人口	15歳以上で、労働する能力と意思をもつ者の数をいう。労働力調査では、15歳以上人口のうち「就業者」と「完全失業者」を合わせたものとされる。
10	観光立国推進基本法	観光立国に関する、基本理念、国および地方公共団体の責務、施策の基本事項などを定めた法律のことをいう。
10	環太平洋連携協定 (TPP)	アジア太平洋地域において、関税、サービス、投資の自由化を進め、知的財産、金融サービス、電子商取引など、幅広い分野でルールを構築する経済的枠組みのことをいう。
10	欧州連合 (EU)	ヨーロッパに位置する国を主な加盟国とし、経済・通貨統合をはじめ外交・安全保障分野など様々な政策を協力して進めるために設立された政治・経済統合体のことをいう。
10	経済連携協定 (EPA)	自由貿易協定 (FTA：物品及びサービス貿易の自由化) に加え、投資、人の移動、知的財産の保護、経済取引の円滑化など、幅広い経済関係の強化を目的とする協定のことをいう。
10	地方分権一括法	地方分権を推進するために、地方自治法など 475 件の法律について必要な改正を行うことを定めた法律のことをいう。
10,21,25	ネットワーク	「網 (net)」という意味の英単語を語源とし、人間関係の広がりや、組織や集団、拠点などの間の繋がりがりや体系、交通機関や道路等の地理的な構造などを総称したものである。
11,25	Society5.0	サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させた新たな未来社会の姿。第5期科学技術基本計画において提唱された。
11	イノベーション	従来のモノ、しくみ、組織などを改革して社会的に意義のある新たな価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動全般を指す。
11,24,25	ICT	Information and Communication Technology の略。コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称のことをいう。
11	IoT	Internet of Things の略。あらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にするといった概念・コンセプトのことをいう。
11,23,24	AI	Artificial Intelligence (人工知能) の略。人間の知的営みをコンピュータに行わせるための技術、またはそのコンピュータプログラムのことをいう。
11	RPA	Robotic Process Automation (ロボティック プロセス オートメーション) の略。人が手作業で行っている定型的で反復的な処理を自動化する仕組みのことをいう。
11	持続可能な開発のための 2030 アジェンダ	2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年の国連サミットで採択された、2030 年までの国際開発目標のことをいう。
11	ジェンダー	身体の特徴など生来の性別の違いではなく、社会的・文化的につくられる〈男らしさ〉〈女らしさ〉といった性差のことをいう。
11	パリ協定	2015 年の国連気候変動会議 (COP 21) で採択された温暖化対策の国際ルール。世界平均気温の上昇を産業革命前比で 2 度未満に抑える長期目標を持つ。
20,22,24	ワークショップ	本来〈仕事場〉〈作業場〉〈工房〉の意を表す。参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習のことをいう。
21	ネウボラ	妊娠・出産から幼児期の子育てに至る親の育児の取組を包括的・継続的に切れ目なく支援する制度やサービスのことで、フィンランド発祥の仕組みである。
22	デマンドタクシー	自宅や指定の場所から目的地 (戸口から戸口) まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望 (デマンド) に応じて運行するタクシーのことをいう。
23	キャパシティ	収容能力、容積、容量のこと。また、物事を受け入れる能力や受容力のことをいう。
23	アクティブシニア	自分なりの価値観をもち、定年退職後にも、趣味や様々な活動に意欲的な、元気なシニア層のことをいう。特に、「団塊の世代」を中心とする年齢層を指すことが多い。
25	レジリエンス	一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される。防災や環境分野で、想定外の事態に対し社会や組織が機能を速やかに回復する強靱さを意味する用語として使われる。
25	セーフティネット	個人や企業に経済的なリスクが発生したとき、最悪の事態から保護するしくみをいう。安全網または社会的安全網とも訳される。

第1章 総合計画策定の趣旨

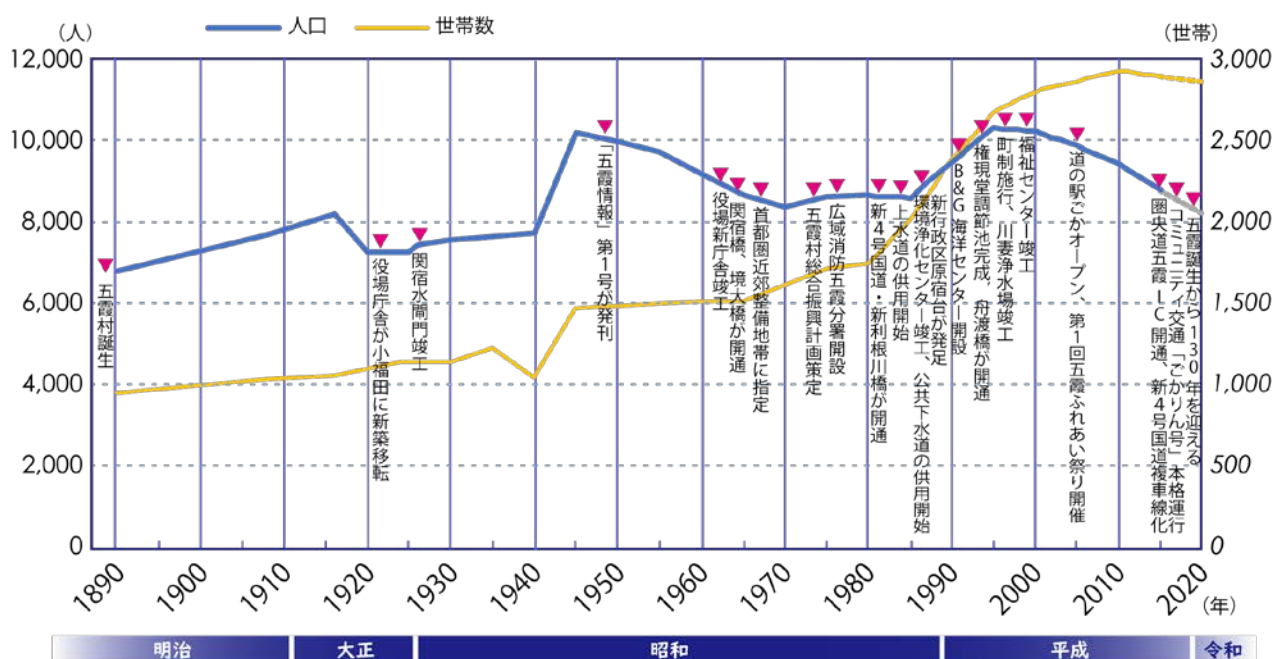
1. 計画策定の意義

本町は、令和元年（2019年）に、五霞村の誕生（明治22年（1889年））から130年を迎えました。当初のまちの主な産業は農業でしたが、昭和の時代になり、農工両全の施策を掲げ、首都近郊のまちとして成長してきました。特に、高度経済成長期以降は、住宅団地の建設で人口不足を、工業団地の建設で雇用や経済力の不足を、道の駅の設置でにぎわいの拠点の弱さを、圏央道IC設置やコミュニティバスの実施で不便さの解消を図り、新たな価値を生み出すことでまちの発展を支えてきました。

全国的に人口減少・少子高齢化を迎える中、本町においても課題は山積しています。少子高齢化の急速な進展、高度情報化社会の到来、地球規模での環境問題の深刻化、地方分権に伴う事務の移譲、公共施設等の老朽化、住民ニーズの多様化など様々な課題を解決していくため、これまで培ってきたまちの価値を糧にして、これらの質を高めながら、その先の五霞町の未来を見定めていく必要があります。

昭和44年（1969年）の地方自治法改正により、総合計画における基本構想の策定の義務づけに係る規定が設けられ、それ以降、全国の市町村で総合計画の策定が行われるようになりました。五霞町においても、昭和48年（1973年）3月に五霞村総合振興計画を策定して以降、第5次に至るまで総合計画の改定が行われ、同計画に基づきまちづくりを進めてきました。

この度、これからの五霞町が目指すまちづくりの目標を改めて見直すとともに、長期的な視点での持続的な発展を目指し、また、多様化する社会情勢、財政状況等を勘案した上で、住民と行政の計画的なまちづくりの行動指針となる「第6次五霞町総合計画」を策定するものです。



出典：国勢調査、五霞町資料

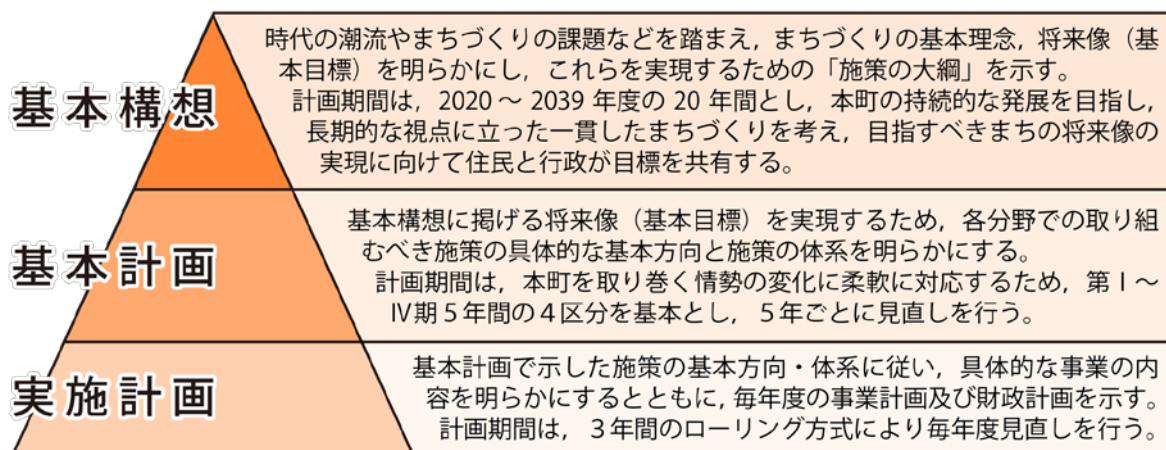
2. 総合計画の構成・計画期間

新しい五霞町の総合計画には、五霞町議会の議決すべき事件を定める条例（平成 26 年五霞町条例 第 19 号）に基づき、引き続き本町の最上位計画として位置づけ、住民が豊かに暮らす土台づくりの基礎になってまちづくりを牽引する役割があると考えています。

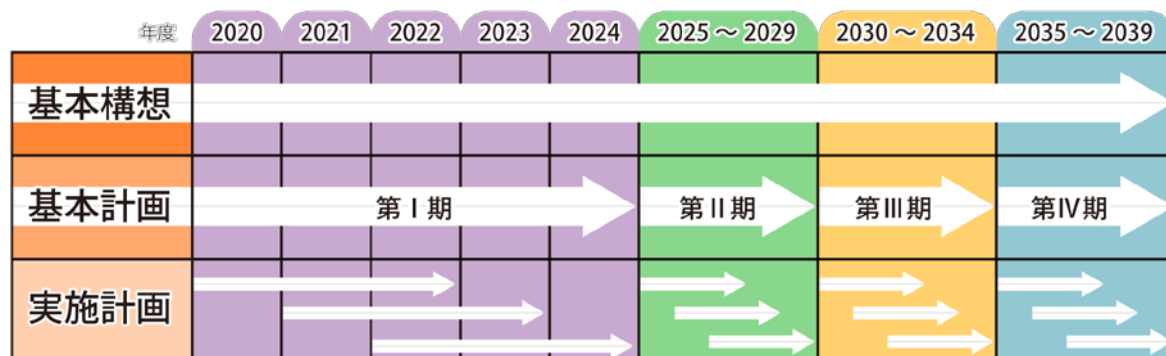
そのため、長期的な視点でみるまちづくりの方針については、時間軸を長く持たせた計画とし、達成すべき目標とその実現のための道筋を明らかにした具体的な方針については、中期間で見直しを図っていけるような計画としていく必要があります。

したがって、計画の構成としては、これまでのように「基本構想」「基本計画」「実施計画」の 3 層構造については踏襲しつつ、計画期間を「基本構想」は 20 年、「基本計画」は 5 年ごとに 4 期に分けて見直しを図り、「実施計画」は計画期間を 3 年とし、毎年度見直しをするローリング方式*により適宜対応が図れる仕組みとします。

■計画の体系図



■計画の期間



第2章 五霞町の概況

1. 位置・地勢・気候等からみた五霞町

(1) 位置

五霞町は、関東平野のほぼ中央、茨城県の西南端に位置し、都心から約 50 km、県都水戸市からは 70 km の圏域にあり、茨城県で唯一利根川の右岸に位置しています。

東は江戸川を隔てて千葉県に、南西は、権現堂川及び中川を隔てて埼玉県に、また北東部を流れる利根川をはさんで古河市・境町に接し、四方を河川に囲まれた県境のまちとなっています。

町内のほぼ中央に新 4 号国道が縦断し、これと交差する形で首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が通っており、平成 27 年 3 月に五霞インターチェンジが供用開始されました。



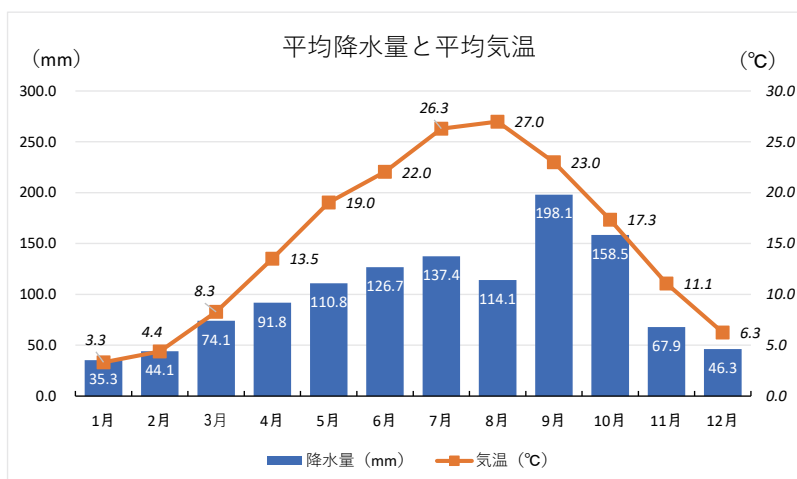
(2) 地勢

本町は、東西に 7.1 km、南北に 6.1 km で、総面積は 23.11 km² となっています。四方を河川に囲まれているため、地質は猿島台地の洪積層と、利根川、渡良瀬川が形成した沖積層からなり、標高 8 ～ 15m 程度の平坦な地形です。

(3) 気候

気候は、関東内陸部の気象条件で、夏は湿度が高く高温になり、冬は乾燥した晴天が多く降雪は少ないものの、「赤城おろし」と呼ばれる乾燥した強い西風が吹きます。

平成 21 ～ 30 年の月別平均気温をみると、最も低い 1 月は 3.3℃、最も高い 8 月は 27.0℃ となっています。月別平均降水量をみると、最も少ない 1 月は 35.3mm、最も多い 9 月は 198.1mm となっています。



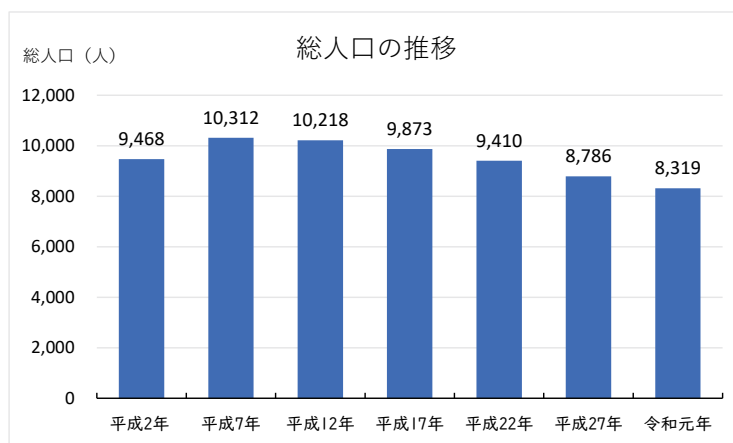
出典：気象庁
古河観測所 10 年間 (H21 ～ H30) の平均

2. 人口と世帯の状況からみた五霞町

(1) 人口と世帯数の推移

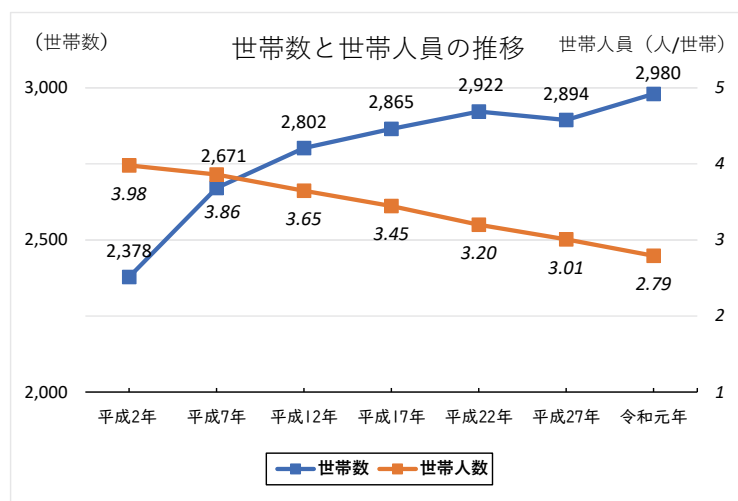
人口は平成7年をピークに減少に転じ、世帯数は増加傾向を続けている。

本町の人口は、冬木特定土地区画整理事業（現：原宿台地区）に伴う住宅開発などを背景として、増加傾向を示していましたが、平成7年の10,312人をピークに減少に転じることとなり、平成27年の国勢調査では8,786人、令和元年の茨城県常住人口調査（四半期報）では8,319人となっています。



出典：国勢調査・茨城県常住人口調査
（令和元年10月1日現在※四半期報より）

世帯数は平成27年に減少しましたが、令和元年には2,980世帯と再び増加に転じています。一世帯あたりの人員は減少が続き、平成2年には3.98人/世帯であったものが、令和元年では2.79人/世帯となっています。核家族や高齢者夫婦のみの世帯、高齢者のひとり暮らし世帯の増加などにより世帯家族規模の縮小化が進んでいる傾向がみられます。



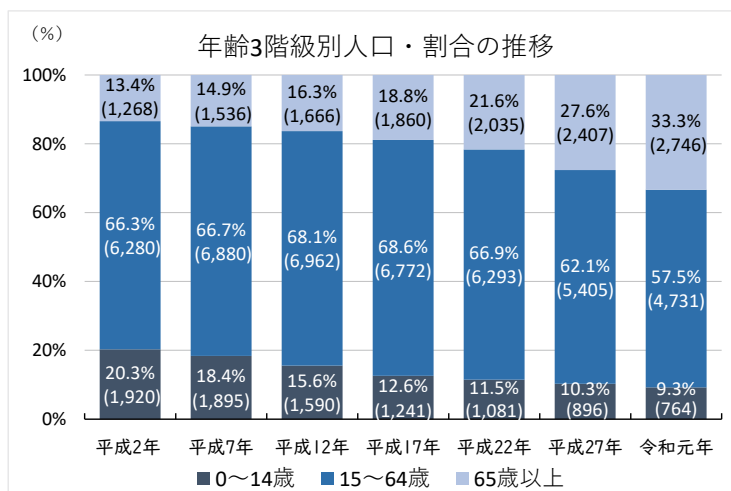
出典：国勢調査・茨城県常住人口調査
（令和元年10月1日現在※報道発表資料より）

(2) 年齢3階級別人口・割合の推移

29年間で老年人口割合が2.5倍に、年少人口割合は半分以下に減少し、生産年齢人口は減少傾向となっている。

本町の年齢3階級別人口・割合の推移をみると、0～14歳の年少人口は平成2年と比較すると、令和元年では半分以下に減少し10%を切っている一方で、65歳以上の老年人口は平成2年と比較すると、令和元年は約2.5倍となっています。

15～64歳までの生産年齢人口は、平成17年までは増加を示していましたが、年少人口の減少や団塊の世代の高齢化を背景に、平成22年以降は減少へと転じています。



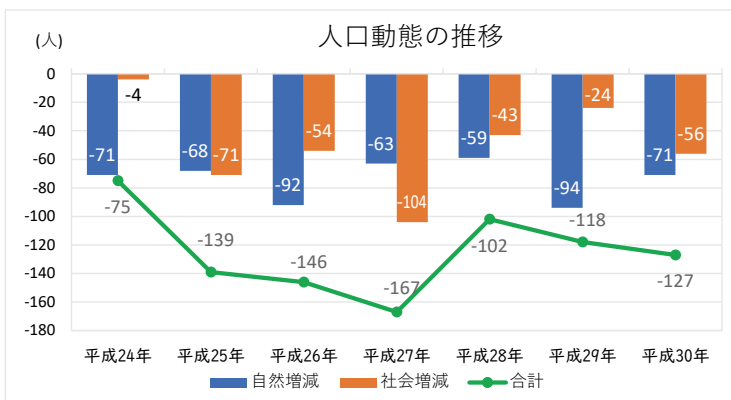
出典：国勢調査・茨城県常住人口調査
(令和元年10月1日現在, 年齢不詳は含めず)

(3) 人口動態の推移

平成28～29年に社会減がやや持ち直したが、自然増減、社会増減*ともに減少が続いている。

本町の人口動態の推移をみると、平成24年以降、自然増減、社会増減*ともにマイナスで推移しています。自然増減、社会増減*の合計でみると、平成25年から平成27年は毎年150人近くの人口が減少しています。

平成28年からは社会増減による減少がやや持ち直し、110人前後の減少で推移していましたが、平成30年に再び減少数が多くなり、人口動態は減少が続いている状態です。

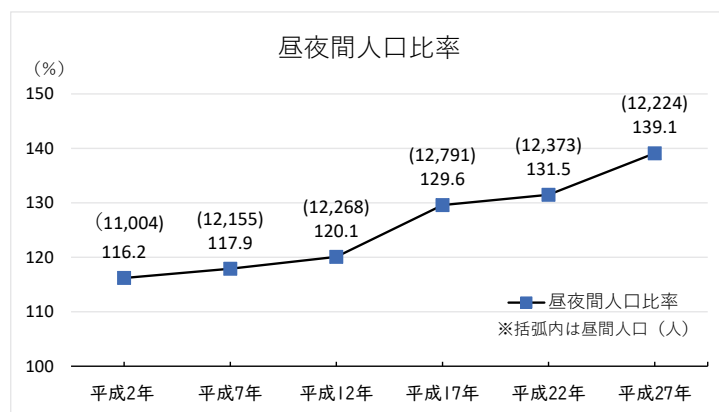


出典：茨城県常住人口調査（各年）

(4) 昼夜間人口*指数の推移

平成 2 年から増加が続いており、平成 17 年から大きく増加している。

本町の昼夜間人口*比率は、平成 2 年の 116.2% から上昇を続け、平成 27 年には 139.1% となっています。工場立地などを背景に昼間人口の伸びがみられましたが、平成 22 年以降昼間人口は減少に転じているにもかかわらず、夜間人口の減少の影響により、比率は上昇しています。

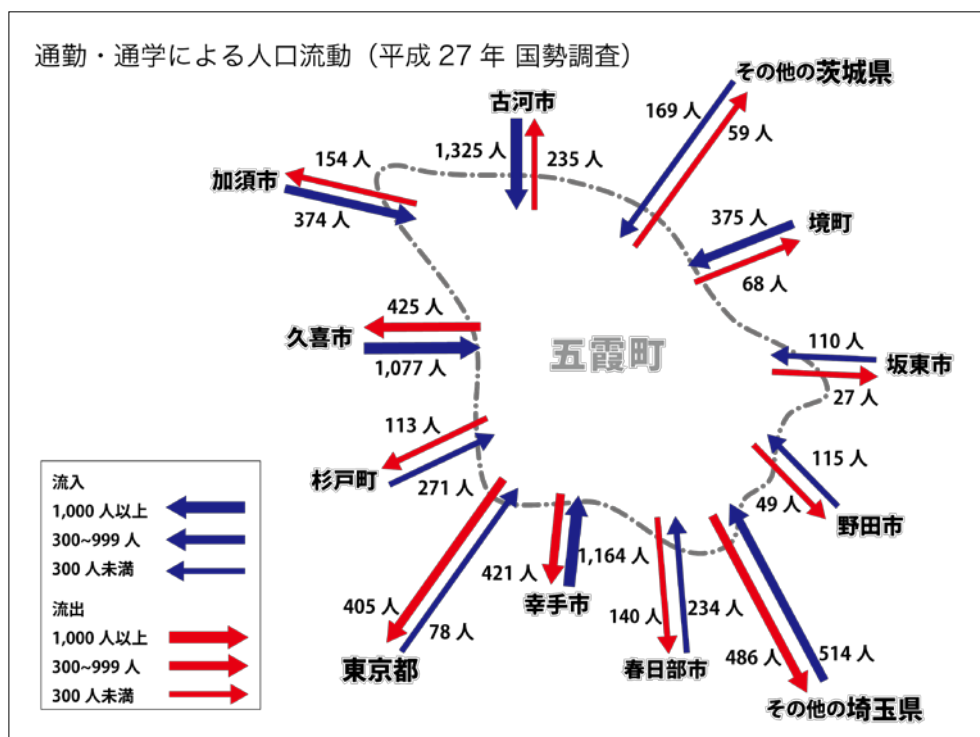


出典：国勢調査・茨城県常住人口調査

(5) 通勤・通学による人口流動（平成 27 年 国勢調査）

通勤による流入人口が流出人口を大きく上回っている。

本町の平成 27 年の通勤・通学による人口流動では、流入人口が流出人口を大きく上回っています。流入先は茨城県古河市が最も多く、次いで埼玉県幸手市、久喜市となっています。県別でみると流入・流出ともに埼玉県が最も多くなっています。



3. 産業構造からみた五霞町

(1) 産業別就業人口・割合の推移

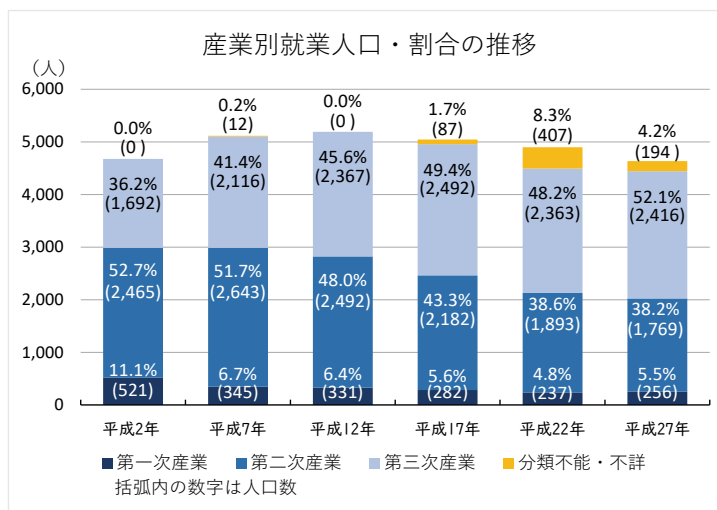
第一次産業、第二次産業は減少傾向、第三次産業は増加傾向を示している。

本町の産業別就業人口は平成12年をピークに減少傾向です。

産業別就業人口割合の推移をみると、第一次産業・第二次産業については、減少傾向が続いており、平成27年においては、第一次産業は5.5%、第二次産業は38.2%となっています。

一方、第三次産業は増加傾向で、平成2年の36.2%から平成27年では52.1%と増加しています。

出典：国勢調査



(2) 事業所・従業者数（平成28年 経済センサス活動調査）

事業所は建設業が最も多いが、従業者は製造業が最も多く、次いで運輸業となっている。

本町の事業所数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業、卸売業・小売業、運輸業・郵便業と続いています。

一方、従業者数は製造業が最も多く、次いで運輸業・郵便業、建設業、卸売業・小売業の順となっています。

本町の事業所数・従業者数のベスト5

ランキング		1	2	3	4	5
事業所数	業種	建設業	製造業	卸売業・小売業	運輸業・郵便業	宿泊業・飲食サービス業
	箇所数	123	86	72	41	27
従業者数	業種	製造業	運輸業・郵便業	建設業	卸売業・小売業	医療・福祉
	人数	5,016	1,151	645	555	272

第3章 五霞町を取り巻く時代の潮流

1. 人口減少やグローバル化など社会を取り巻く環境の変化

(1) 人口減少時代への対応

我が国の人口は2065年には8,808万人になるものと推計されており、人口構成比は老年人口割合が約38%、生産年齢人口が約51%、年少人口が約10%で、人口減少・少子高齢化については依然として深刻な状況となっています。（国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口平成29年推計」より）

人口減少は、労働力人口*の減少をもたらし、生産と消費といった経済面の影響はもとより、地域コミュニティ機能の弱体化、年金・医療・介護等の社会保障制度の不安定化、税財源の減少による公共サービスの縮小等、人々の生活に大きく影響を及ぼしつつあります。こうした状況に対応するため、若い世代が安心して働き、子供を産み育てやすい社会経済環境の実現が必要となります。

(2) グローバル化への対応

我が国では、力強い経済を取り戻すための重要な成長分野として観光を位置づけ、観光立国推進基本法*の成立（平成18年（2006年））や、戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク*拡大などにより、訪日外国人旅行者数は平成27年（2015年）に約2,000万人になり訪日外国人旅行消費額は約3.5兆円に伸びています。

また、日本を含む11カ国が参加する環太平洋連携協定（TPP）*の発効（平成30年（2018年））による新たな経済圏の誕生や、欧州連合（EU）*との経済連携協定（EPA）*も発効（平成31年（2019年）2月）など、経済圏の拡大が進んでいます。

このように、多方面でのグローバル化の進展は今後益々加速されていくことは間違いなく、我が国においても国家間、都市間の競争がこれまで以上に激しくなる中、国際市場も視野に入れた事業化戦略の立案や販路開拓、グローバルリーダーの育成や外国人労働者の受入れなどを推進していくことが求められています。

2. 行政政策や技術革新など社会の仕組みの変化

(1) 自立が求められる地方行政への取組・地方創生・地域再生への取組

平成12年（2000年）に地方分権一括法*が施行され、国と地方の役割分担の明確化や機関委任事務の廃止などを通して地方分権が進められ、平成26年（2014年）からは、個々の地方公共団体等から全国的な制度改革の提案を広く募る「提案募集方式」の導入などが行われており、基礎自治体への権限移譲がさらに進む状況となっています。

一方、人口減少時代の到来により、人口減少の加速化が進むとともに、東京圏に人口が一極集中し、地域格差や地方から都市部への人口流出が予想されることから、政府では、平成26年（2014年）に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、総合的な取組を進めています。

(2) ICT*の進展への対応

我が国においては、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会として Society5.0*を目指した取組が進められています。ICT*の想像を超える進展やデータ流通量の飛躍的な増大によるイノベーション*が期待されています。

人とものがつながることにより新たな価値を生み出す IoT*，必要な情報を必要なときに提供することができる AI*，ロボットや自動走行車などの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ，経済発展と社会的課題の解決を両立することが求められています。

また，少子高齢化により人的な資源の減少が懸念される中，事務の効率化，簡素化を図り，行政サービスの質の維持を継続していくためにも，AI*や RPA*（ロボティクス・プロセス・オートメーション）などの新たな技術の導入の検討が必要となっています。

3. 災害・エネルギーなどリスク環境の変化

(1) 安全・安心な国土づくり

我が国は国土，風土の条件から，台風，大雨，大雪，洪水，土砂災害，地震，津波，火山噴火などの自然災害が発生しやすく，数多くの災害に見舞われてきた歴史があり，これらの災害への対策は最重要事項となっています。特に，近年，気候変動による災害の激甚化，首都直下地震，南海トラフ巨大地震の切迫（30年以内の発生確率70%）なども懸念され，自然災害への対策が求められています。

また，高度成長期以降に集中整備した橋やトンネル，高速道路，水道・下水道等のインフラは，今後，老朽化が急速に進むと見込まれており，計画的な更新により機能を適切に維持していくことが求められています。

このような状況から，国では，あらゆるリスクを見据えつつ，どんなことが起ころうとも最悪な事態を避けられるような「強靱」な行政機能，地域社会，地域経済を作り上げていく取組として「国土強靱化基本計画」を策定しています。

災害時の被害をできる限り少なく抑えるため，日常的な災害に対する備え，近所や地域の方々と助け合う体制を整えていく必要があります。

(2) 環境問題・エネルギー問題への対応

国際的な取組の強化にもかかわらず，地球温暖化，自然破壊，生物多様性の危機など，地球規模での環境問題は依然として深刻な状態が続いています。

国連では，平成27年（2015年）9月に「持続可能な開発のための2030アジェンダ*」が採択され，世界が取り組むべき持続可能な開発目標「SDGs（Sustainable Development Goals）」を掲げました。この中では，エネルギー問題や気候変動対策などとともに，貧困やジェンダー*の問題，製造・消費の責任，海・陸の豊かさを守るなど，複数の課題の統合的な解決を目指すことが求められています。

また，平成27年（2015年）12月には「パリ協定*」が採択され，全世界で地球温暖化対策に取り組むことが確認されています。

持続可能な社会を実現するため，経済，社会及び環境をめぐる広範囲な課題に対する統合的な取組が求められています。

第4章 各種調査結果の概要

1. 各種アンケート調査結果の概要

(1) 調査概要

■調査の目的

第6次五霞町総合計画の策定にあたり、今後の取組に生かしていくことを目的とし、住民が五霞町に暮らしていく中で日頃感じていることや、将来を担う中学生・高校生が今の五霞町をどのように考え将来どんなまちになってほしいと思っているのか、また、町内の事業所からのご意見なども伺うこととしました。

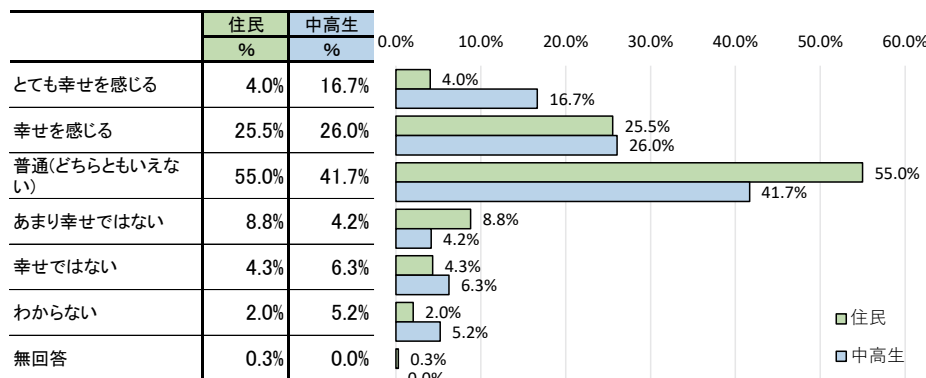
さらに、外からみた五霞町を把握するため、近隣市町の住民からも意見を募ることとしました。

実施した調査	調査対象者	調査方法	調査期間	配布・回収状況
1 住民意向調査	町内在住の18歳以上の住民	郵送による配布・回収	平成30年 12月6日(木) ～12月20日(木)	配布数：3,103票 回収数：693票 回収率：22.33%
2 中高生意向調査	町内在住の中学2年生 及び高校生	中学生：学校を通じて 高校生：郵送による配布・回収	平成30年 12月6日(木) ～12月20日(木)	配布数：284票 回収数：96票 回収率：33.80%
3 事業所意向調査	五霞工業クラブ加盟 事業所	工業クラブを通じて配布 郵送による回収	平成30年 11月22日(木) ～12月7日(金)	配布数：57票 回収数：22票 回収率：38.60%
4 職員意識調査	五霞町役場職員	役場内システム活用	平成30年 12月28日(金) ～平成31年 1月21日(月)	配布数：97票 回収数：93票 回収率：95.88%
5 WEB アンケート調査	20～59歳の近隣市 町在住者	インターネットによる調査	平成30年 11月19日(月) ～11月21日(水)	回収数：1,049票 回収率：12.0%

(2) 住民意向調査（前回（第5次策定時）・今回）結果・中高生意向調査結果の比較〈抜粋〉

■問：あなたは五霞町で暮らしていて幸せを感じていますか。《住民・中高生比較》

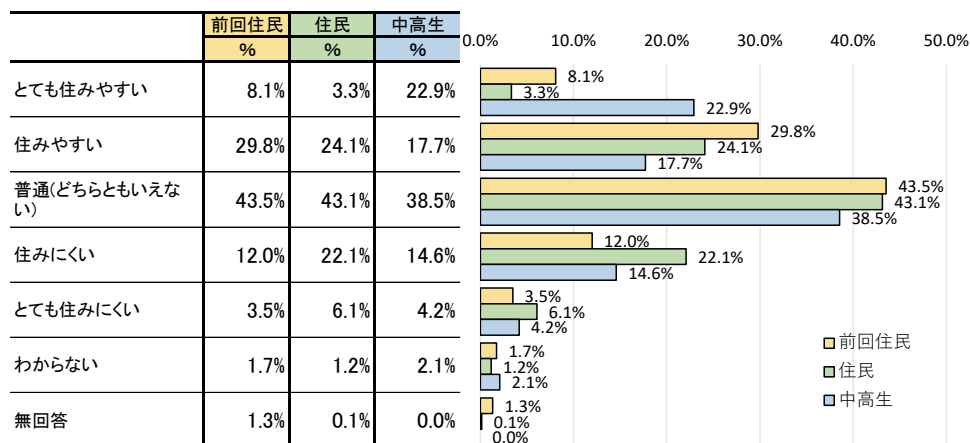
住民、中高生ともに、「普通（どちらともいえない）」が最も多く、次いで「幸せを感じる」となっています。住民では「あまり幸せではない」と「幸せではない」が「とても幸せを感じる」よりも多くなっています。一方、中高生では「とても幸せを感じる」が「あまり幸せではない」と「幸せではない」より10ポイント以上多くなっています。



■問：あなたは五霞町を住みやすいと感じていますか。《前回住民・住民・中高生比較》

前回と今回の住民調査を比較すると、前回調査で多かった「住みやすい」と「とても住みやすい」が、今回調査では減少しており、「住みにくい」と「とても住みにくい」が増加しています。

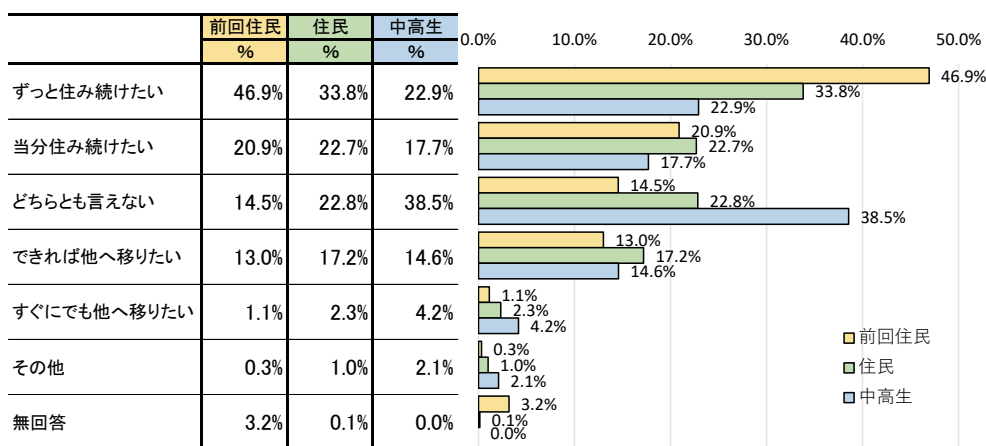
今回調査の住民と中高生を比較すると、中高生では「とても住みやすい」が「普通（どちらともいえない）」に次いで多くなっており、中高生の方が住みやすいと感じていることがわかります。



■問：あなたは今後も五霞町に住み続けたいと思いますか。《前回住民・住民・中高生比較》

前回と今回の住民調査を比較すると、前回調査で５割近くあった「ずっと住み続けたい」が、今回調査では約３割と減少しています。

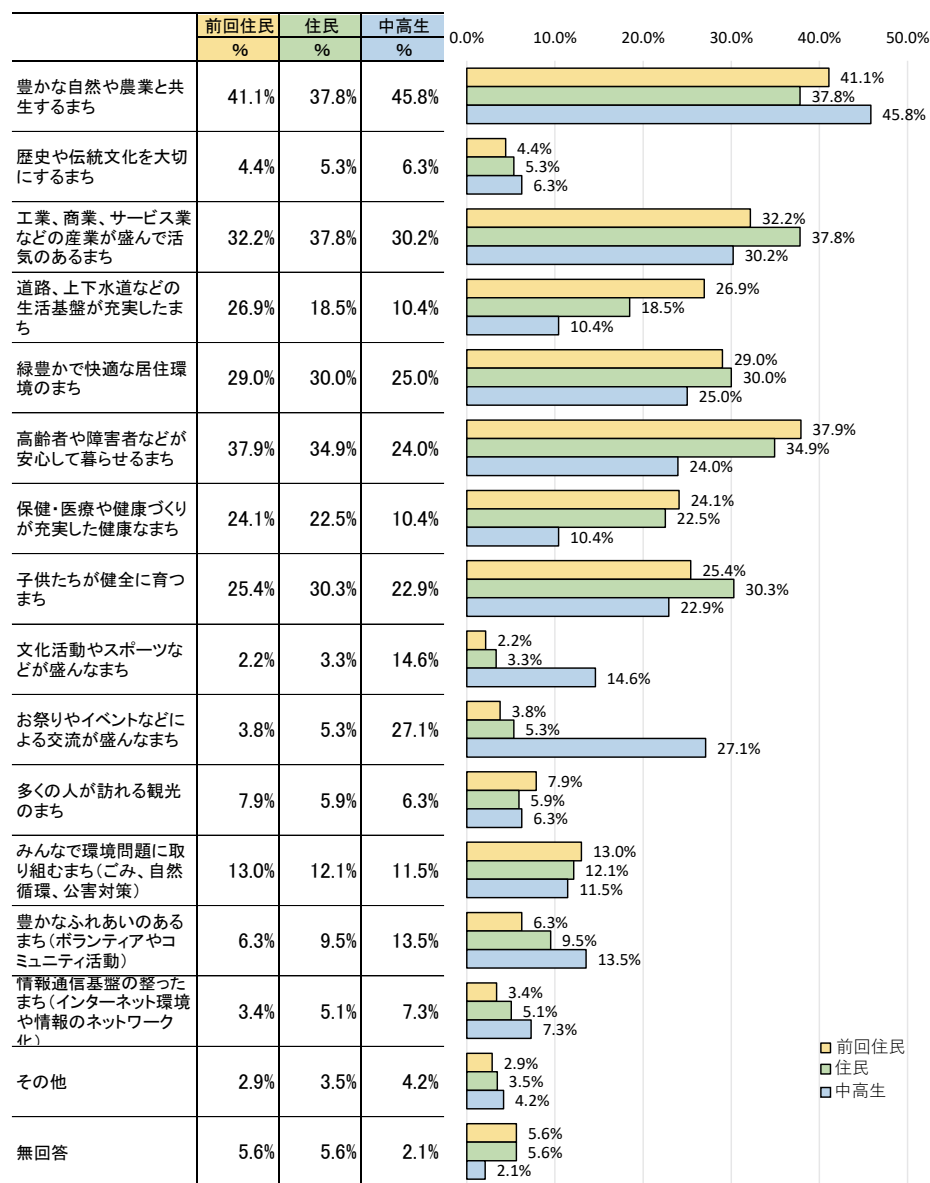
今回調査でみると、中高生では「どちらとも言えない」が最も多く４割近くとなっています。



■問：五霞町の将来はとなると良いと思いますか。《前回住民・住民・中高生比較》

前回と今回の住民調査を比較すると、前回より増加しているのが「工業、商業、サービス業などの産業が盛んで活気のあるまち」、「子供たちが健全に育つまち」などとなっています。反対に前回より減少しているのが「道路、上下水道などの生活基盤が充実したまち」、「豊かな自然や農業と共生するまち」、「高齢者や障害者などが安心して暮らせるまち」となっています。

今回調査の中高生では、「豊かな自然や農業と共生するまち」、「お祭りやイベントなどによる交流が盛んなまち」、「文化活動やスポーツなどが盛んなまち」などが住民より多くなっています。



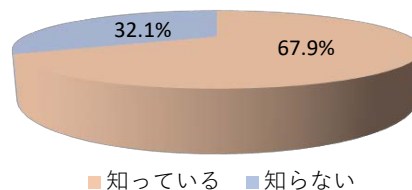
(3) WEB アンケート調査

■回答者の居住地

- ・茨城県（古河市・境町・坂東市）
- ・埼玉県（久喜市・幸手市・加須市・杉戸町・宮代町・春日部市・越谷市・草加市・伊奈町・蓮田市・白岡市）
- ・千葉県（野田市） ・栃木県（野木町）

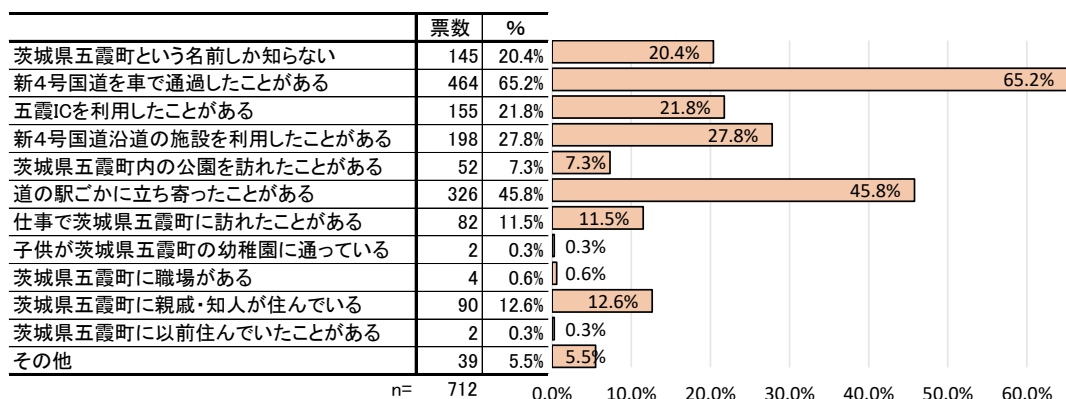
■問：あなたは五霞町を知っていますか。

近隣市町の住民の五霞町の認知度については、「知っている」が67.9%、「知らない」が32.1%となっています。



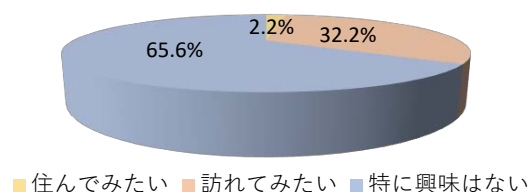
■問：「知っている」と回答した方、あなたと五霞町との関わりを教えてください。複数回答。

五霞町との関わりについては、「新4号国道を車で通過したことがある」が65.2%と最も多く、次いで「道の駅ごかに立ち寄ったことがある」が45.8%となっています。



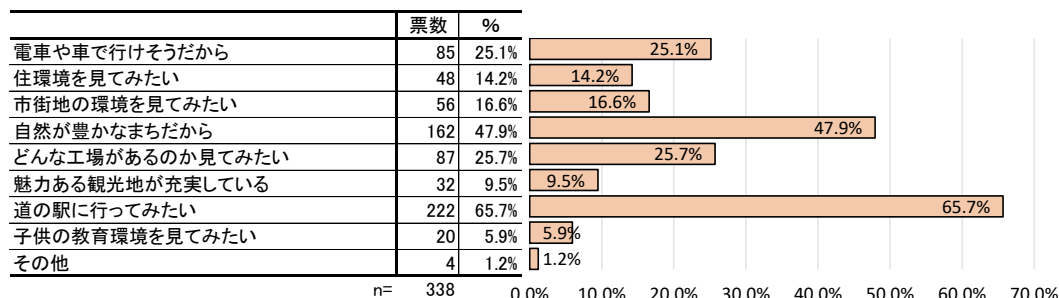
■問：あなたは五霞町に対してどのように思いますか。

五霞町への関心については、「特に興味はない」が65.6%、「訪れてみたい」が32.2%となっています。



■問：「訪れてみたい」を選んだ理由は何ですか。複数回答。

五霞町を訪れてみたい理由については、「道の駅に行ってみよう」が65.7%と最も多く、次いで「自然が豊かなまちだから」が47.9%となっています。



(4) 事業所意向調査（前回（第5次策定時）・今回）結果の比較

■回答のあった事業所の基本情報

回答のあった事業所は、前回は23事業所、今回は22事業所となっています。

前は立地から「3年未満」、「3～10年未満」の事業所もありましたが、今回はすべて立地から10年以上が経過した事業所からの回答となっています。

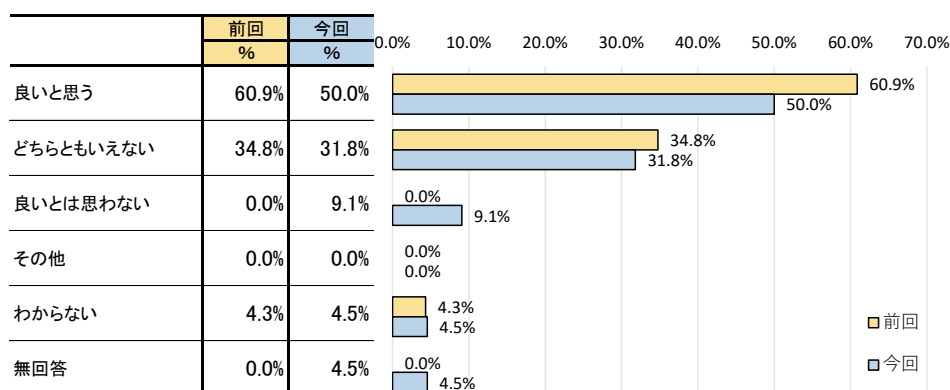
立地からの経過年数	前回	今回
3年未満	1	0
3～10年未満	2	0
10年～20年未満	5	3
20年以上	15	19
無回答	0	0
計	23	22

事業所の位置	前回	今回
川妻・大崎地区	11	11
土与部・押出地区	3	4
江川地区	7	3
その他	2	1
無回答	0	3
計	23	22

事業所の従業員規模	前回	今回
1～4人	0	2
5～9人	4	1
10～19人	1	1
20～29人	3	3
30～49人	4	1
50人以上	11	13
無回答	0	1
計	23	22

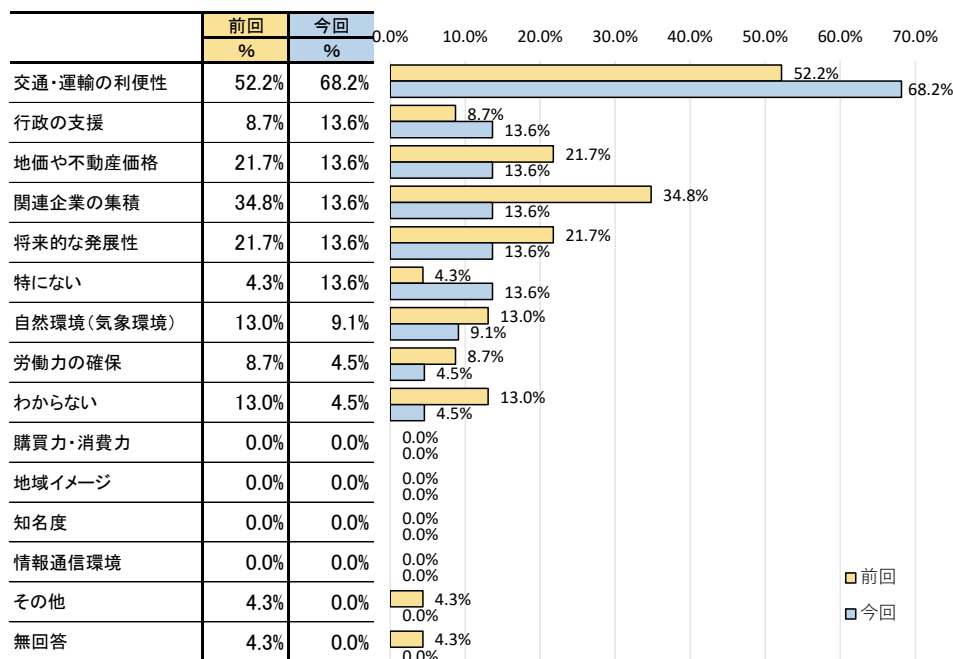
■問：事業所の立地条件として「五霞町」をどのように思いますか。《前回・今回比較》

前回調査では6割だった「良いと思う」が今回5割に減少している一方で、前は0だった「良いとは思わない」が1割弱となっています。



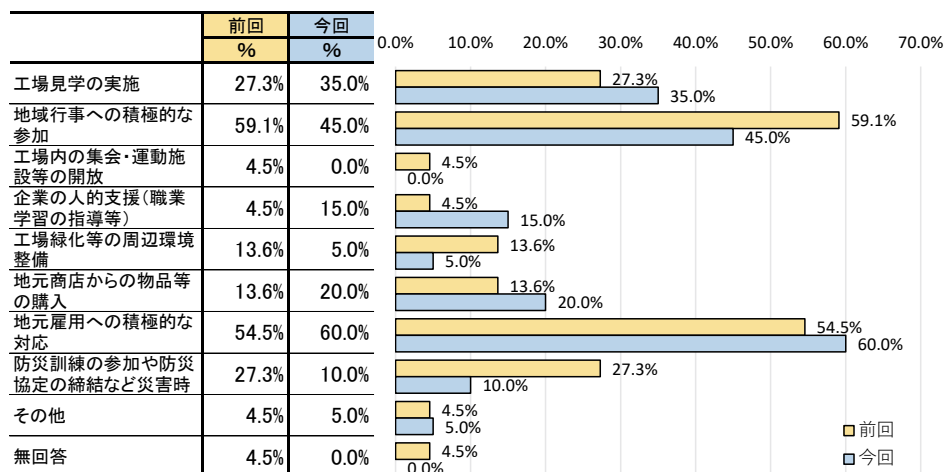
■問：事業活動を行う上で五霞町のメリットは何かありますか。《前回・今回比較》

前回調査と比較して増加したのは「交通・運輸の利便性」、「行政の支援」となっています。一方、前回より減少したのは「関連企業の集積」、「地価や不動産価格」、「将来的な発展性」などとなっています。



■問：五霞町のどのようなことにご協力いただけますか。《前回・今回比較》

前回調査と比較して、「地域行事への積極的な参加」、「防災訓練の参加や防災協定の締結など災害時の対応」が大きく減少しています。一方、増加したのは「企業の人的支援（職業学習の指導等）」、「工場見学の実施」、「地元商店からの物品等の購入」などとなっています。



(5) 各種調査からの五霞町をイメージするキーワード

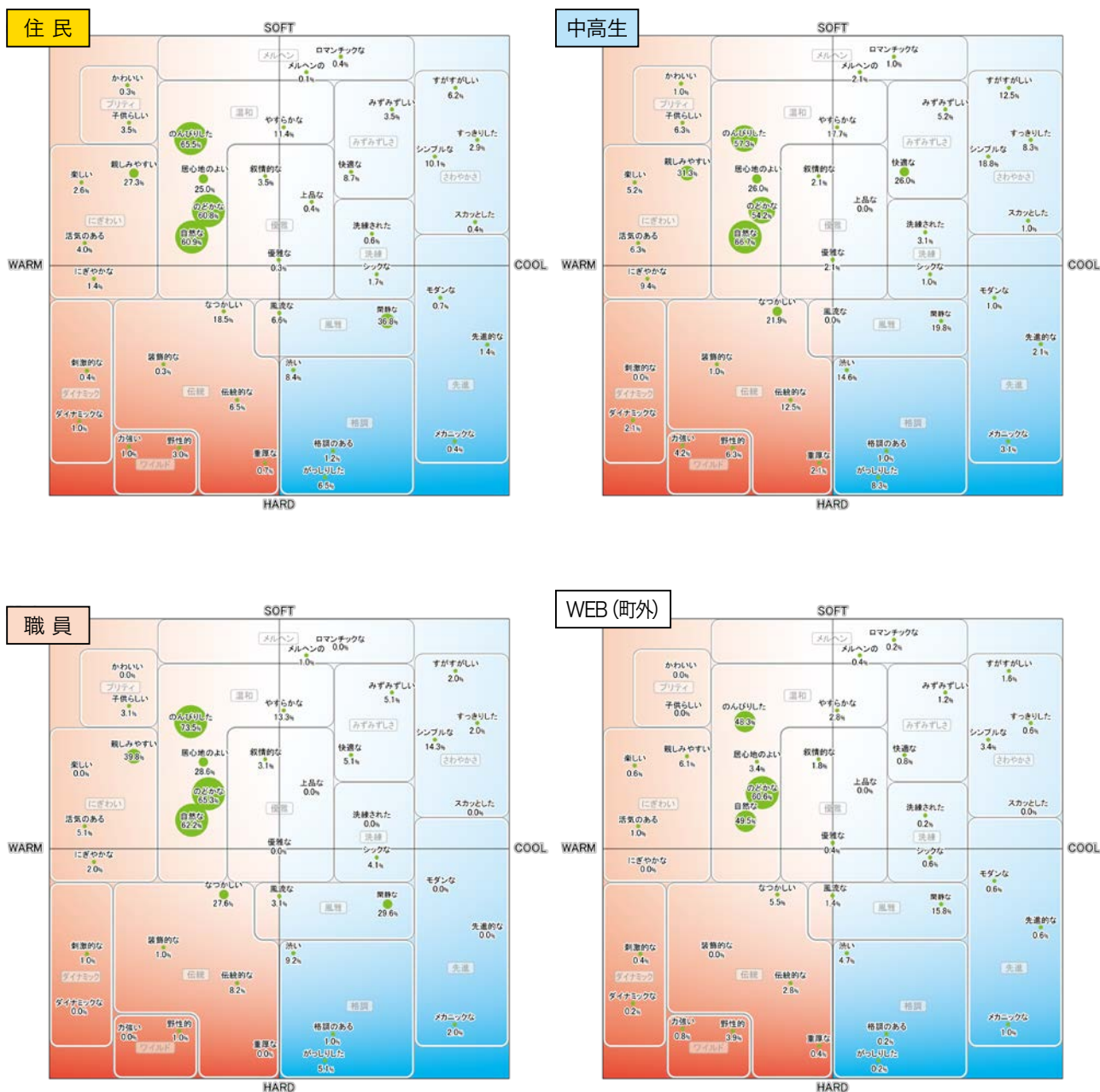
各種アンケート調査で、「現在の五霞町」と「将来の五霞町」をイメージする言葉を選択肢（キーワード）から選ぶ問いを、住民意向調査、中高生意向調査及び職員意識調査で設定しました。

また、町外の方を対象としたWEB アンケートでは「五霞町をイメージする言葉」として同じ選択肢（キーワード）から選ぶ問いを設定し調査を行いました。

■「現在の五霞町」をイメージする言葉《住民・中高生・職員・WEB（参考）の結果比較》 「のんびりした」、「自然な」、「のどかな」が五霞町をイメージするキーワード。

現在の五霞町をイメージする言葉は、住民、中高生、職員で共通して「のんびりした」、「自然な」、「のどかな」の3つが多かったという結果になりました。

また、町外の方を対象にしたWEB アンケート調査でも五霞町のイメージは、「のんびりした」、「自然な」、「のどかな」の3つの言葉に集中する結果となりました。



■「将来の五霞町」をイメージする言葉《住民・中高生・職員の結果比較》

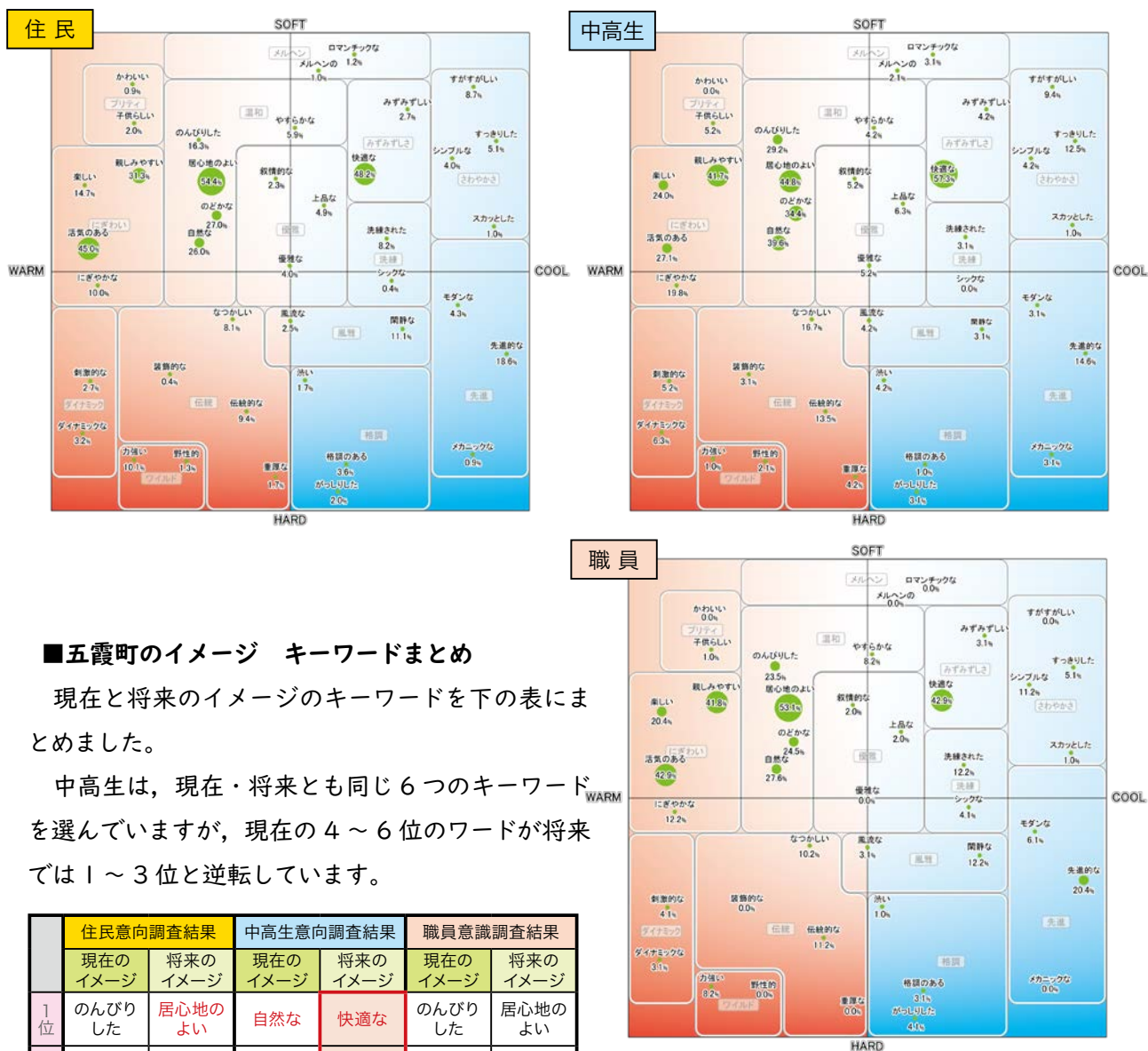
「居心地のよい」、「快適な」が五霞町の将来をイメージするキーワード。

将来の五霞町をイメージする言葉では、住民、中高生、職員で共通して多かったのが「居心地のよい」と「快適な」の2つの言葉でした。

住民では、「居心地のよい」、「快適な」に次いで多かったのが「活気のある」という言葉でした。

中高生では、「快適な」が最も多く、次いで「居心地のよい」、「親しみやすい」という言葉で、現在のイメージで共通して多かった「自然な」、「のどかな」、「のんびりした」も多くなっています。

職員では、「居心地のよい」が最も多く、次いで「快適な」と「活気のある」が並んでいます。



■五霞町のイメージ キーワードまとめ

現在と将来のイメージのキーワードを下の表にまとめました。

中高生は、現在・将来とも同じ6つのキーワードを選んでいます。現在の4～6位のワードが将来では1～3位と逆転しています。

	住民意向調査結果		中高生意向調査結果		職員意識調査結果	
	現在のイメージ	将来のイメージ	現在のイメージ	将来のイメージ	現在のイメージ	将来のイメージ
1位	のんびりした	居心地のよい	自然な	快適な	のんびりした	居心地のよい
2位	自然な	快適な	のんびりした	居心地のよい	のどかな	快適な
3位	のどかな	活気のある	のどかな	親しみやすい	自然な	活気のある
4位	閑静な	親しみやすい	親しみやすい	自然な	親しみやすい	親しみやすい
5位	親しみやすい	のどかな	快適な	のどかな	閑静な	のどかな
6位	居心地のよい	自然な	居心地のよい	のんびりした	居心地のよい	自然な

←表内の色文字はそれぞれの調査で現在・将来に共通して選択されたキーワード。
赤字は1～3位、青字は4～6位。

2. ワークショップ*実施結果の概要

(1) 実施概要

■実施の目的

第6次五霞町総合計画の策定にあたり、住民や中高生、町内で働いている方、近隣市町にお住まいの方、町職員を対象にシミュレーション型ワークショップ*による対話の場を設定し、それぞれの立場からの多様な考え方や意見を聴取することを目的とし実施しました。

第1回で自治体の事業や予算について理解していただき、第2回で五霞町の現状の把握と将来のまちづくりを考える内容となっていることから、町職員を除く参加者は原則2回とも参加していただくこととしました。

シミュレーション型ワークショップ 豪華なGOKAライフ戦略会議		
	第1回 SIM-GOKA-MACHI 2030	第2回 もし五霞が100人の町だったら
日時・場所	平成31年2月2日(土) 13時00分～16時00分 五霞ふれあいセンター	平成31年2月16日(土) 13時00分～16時00分 五霞ふれあいセンター
参加者	①五霞町住民	住民意向調査に応募ハガキ付きチラシを同封、また、役場窓口や公共施設等にチラシを置いて募集。
	②高校生(五霞町在住)	中高生意向調査に応募ハガキ付きチラシを同封、また、ふれあい祭りに関係する高校生を通じて依頼。
	③中学生(五霞町在住)	五霞中学校を通じて依頼。
	④町内就労者	工業クラブ・商工会等を通じて出席を依頼。
	⑤町外住民	町外出身の役場職員のつながりで出席を依頼。
	⑥町職員	総合計画ワーキングチームメンバーを中心に各課から参加。

(2) SIM-GOKA-MACHI 2030

■SIM-GOKA-MACHI 2030 概要

架空の自治体 GOKA-MACHI を舞台として、2020年から2030年までに起こる様々な課題に対し、7人で1つのチームを組み、話し合いによりまちの予算案を作成するゲームです。

2020年から2030年のGOKA-MACHIの状況	架空自治体 GOKA-MACHI は、将来、人口減少と少子高齢化が急速に進行、税収が減少し、社会保障費が増大することが予測される。さらに公共施設の老朽化等、将来に向けての課題が山積しており、財政運営は厳しい状況が予想される。
SIM-GOKA-MACHI 2030のチーム編成	総務部長 健康福祉部長 教育・文化部長(教育担当) 教育・文化部長(文化担当) 生活安全部長 都市建設部長 産業部長 の計7名で編成。
SIM-GOKA-MACHI 2030のルール	・ゲームは3ラウンドで行い、1ラウンドで5年が経過。それぞれのラウンドの制限時間内にまちの予算案を作成する。 ・1チームは7名の部長で編成されていて、各部で「事業カード」を持っている。限られた財源でこれからのまちの課題に対応するためには、事業の見直しや取り組む事業の取捨選択を決断していかななくてはならない。 ・事業の取捨選択は、部長7名の合議によって決定しなければならない。多数決や議長一任という決定方法は認められない。 ・予算案は議会で説明し、承認されなければならない。事業の廃止については十分な説明責任が果たされていないと判断された場合は「否決」となり、廃止はできず「赤字債」を発行することになる。

■ SIM-GOKA-MACHI 2030 で設定した事業

本町の実在の事業ではありませんが、住民が五霞町で必要だと思っているのはどんなことかを検証するために各部の事業を設定しました。

	各部の手持ち事業カード この中から見直すか取り組むかの取捨選択をする。	選択カード 時間の経過の中で出てくる新規事業、取り組むか取り組まないかの選択をする。
総務部	・地域づくり活動支援事業 ・住民サービス向上事業 ・WE LOVE GOKA 推進事業	・行政事務業務効率化事業
健康福祉部	・ぐるっと一周健康ウォーキング大会事業 ・高齢者いきいき活動支援事業 ・みんなで助け合い事業	・GOKA ネウボラ*事業
教育・文化部	・公立学校適正配置計画事業 ・社会教育複合施設計画事業 ・GOKA デジタル博物館事業	・プログラミング教育推進事業
生活安全部	・街路灯・防犯カメラ設置事業 ・空き家有効活用促進事業 ・地球にやさしい GOKA 推進事業	・洪水避難タワー整備事業
都市建設部	・都市計画道路整備事業 ・IC 周辺開発事業 ・コミュニティバス自動運転システム導入事業	・道の駅拡張事業
産業部	・まちなか移動商店街促進事業 ・農業担い手育成事業 ・GOKA 文化体験観光開発事業	・工業団地リニューアル事業

■ SIM-GOKA-MACHI 2030 の結果まとめ

2030 年時点で 3 つのチームが共通して選択した事業と廃止した事業は下の表のようになりました。

全チームが選択した事業は、高齢者が健康で活動することの支援、子育て家族の健康サポートといった健康福祉に関する事業、都市計画道の整備事業、増加している外国人観光客をターゲットにした観光開発事業でした。

	各部の手持ち事業カード	選択カード
全チームが 選択した事業	・高齢者いきいき活動支援事業 交流サロンを整備し、高齢者が健康維持や生きがいを目的としたサークル活動やボランティア活動を支援し、健康でいきいきと地域で活動するシニアライフを目指す。 ・都市計画道路整備事業 都市計画道路の整備により町内の道路ネットワーク*形成が推進し、部分的に発生していた交通渋滞が緩和され自動車での移動がスムーズになる。 ・GOKA 文化体験観光開発事業 外国人観光客をターゲットに、地域文化や郷土料理、農業体験などのプログラムを開発し SNS を使って発信する。近隣の観光地と連携して、立寄先のひとつとなる広域観光ルートをつくる。	・GOKA ネウボラ*事業 妊娠期から就学前までの子供の成長や発達の支援、両親やきょうだいといった子育て家庭全体の心身の健康サポートをするシステムを構築し継続維持していく。
全チームが 廃止した事業	・ぐるっと一周健康ウォーキング大会事業 ・社会教育複合施設計画事業 ・まちなか移動商店街促進事業 ・農業担い手育成事業	

(3) もし五霞が100人の町だったら

■もし五霞が100人の町だったら 概要

2015年の五霞町の実際の人口を100人に換算して、年少人口(子供)、生産人口(大人)、老年人口(お年寄り)のそれぞれの人数を出して、2015年人口分布図(メッシュ図)の上に人形を配置します。

2040年に100人だった町の人口は65人に減少、人形を65体に減らして、2040年人口分布図(メッシュ図)の上に人形を配置し直します。

人口が減少した五霞町で「守りの戦略 やめるべきこと」と「攻めの戦略 やるべきこと」は何かを話し合い、住民が幸せに暮らしていくためには何が大切か考えるワークショップ*です。

WORK-1 「五霞町の現状を把握してみよう」	町役場や公共施設など主な建物、人形100人が配置された2015年の人口メッシュ図を見て、「今の五霞町の良い点」と「今の五霞町の悪い点」を付箋に書き出す。
WORK-2 「五霞町のこれからを想像してみよう」	WORK-1の100体の人形を65体に減らし2040年の人口メッシュ図に配置し直す(建物も)。図面を見て、2015年の良い点と悪い点はどのように変化したか検証し、付箋に変化を書き出す。また、2040年に起こることを想像し、付箋に書き出す。
WORK-3 「守りと攻めのまちづくり戦略を考えてみよう」	① WORK-1, WORK-2で作業してきたことを参考に、「守りの戦略 やめるべきこと」と「攻めの戦略 やるべきこと」は何かを話し合い、付箋に書き出す。 ② 人口が少なくなった五霞町で充実した生活を送るために大切なこと、必要なこと、守っていききたいことなど、思いつくことを付箋に書き出す。

■もし五霞が100人の町だったら ワークの経過

今の五霞町の良い点	今の五霞町の悪い点
・五霞ICがある。圏央道が通っている。 ・工業団地がある。 ・道の駅があり、外から人が訪れる。 ・自然が豊か、田んぼが多い。 ・公共施設が集中して建っている。	・交通の便が悪い。 ・人口が少ない、子供が少ない。 ・お店が少ない。 ・まちが暗い。(夜間)

2015年から2040年でどんなことが起こるか	
・企業・工場・商業施設を増やす ・道の駅のリニューアル ・古民家の活用・民泊 ・公園をキャンプ場としても使えるように ・観光化(野生のホタル) ・農業の企業化 ・スローライフなまちをPR	・高速バスの運行 ・高齢者を労働力として活用 ・管理できない土地・建物が増える ・防災力の低下 ・高齢者だけの地区、孤立化 ・学校・児童館の統合や複合化

攻めの戦略(やるべきこと)	守りの戦略(やめるべきこと)
・施設の集中(統合・IC周辺に集中) ・デマンドタクシー* ・今あるものを有効活用する(民泊・災害時の活用) ・安全な食を売る(農産物・農業体験) ・新しいコミュニティ(集まる場)	・不要なものは廃止(多すぎる施設・バス) ・事業をまとめる、連携する ・道の駅での販売方法(買いたいと思わせる販売に変える)

■もし五霞が100人の町だったら 結果まとめ

最終的に出てきたキーワードから、人口減少・高齢化が進んでも、キャンプ場や宿泊型研修場など訪れる人（＝関係人口）や様々な場面で活躍する高齢者を増やし、住民が家族のように助け合うコンパクトで、「農業」とITやAI*を活用した「ハイテク産業」という2つを併せ持つ新しい価値観のまちという未来の五霞町が見えてきました。

“豪華な GOKA ライフ”を目指すための「キーワード」

- ・新しい価値 農業と工場のハイテク化、多くの人を受入れるキャパシティ*をもったまち、ITやAI*などを活用
- ・中心 コンパクトで高度で使いやすいまち、超コンパクト CITY、便利
- ・外から人を呼び込む キャンプ場、宿泊型研修場、余生を過ごす流入人口
- ・人 高齢者の活躍、アクティブシニア*・交流 全員集合、住民＝家族、助け合いのまち、まちぐるみで、子育てするメリットが大きいまち



第5章 基本的課題

1. 課題の整理

位置・地勢・気候等の状況、人口と世帯の状況、時代の潮流、住民意向など、五霞町を取り巻く状況から課題を整理します。

●位置・地勢・気候等の整理

- ・関東平野のほぼ中央、茨城県の西南端、都心から約 50km、県都水戸市からは 70km の圏域に位置する。四方を河川に囲まれ、町内のほぼ中央に新 4 号国道が縦断し、これと交差する形で首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が通る。

●人口と世帯の状況の整理

- ・総人口の推移は、平成 7 年をピークに減少に転じ、世帯数は増加傾向を続けている。
- ・年齢 3 階級別人口・割合の推移をみると、29 年間で老年人口割合が 2.5 倍に、年少人口割合は半分以下に減少し、生産年齢人口は減少傾向となっている。
- ・人口動態では、自然増減、社会増減*ともに減少が続いているが、平成 28 年から社会減がやや持ち直し、平成 30 年に再び減少数が多くなっている。
- ・昼夜間人口*指数では、平成 2 年から増加が続いており、平成 17 年から大きく増加している。
- ・人口流動では、通勤による流入人口が流出人口を大きく上回っている。
- ・産業別就業人口は第一次産業、第二次産業は減少傾向、第三次産業は増加傾向を示す。
- ・事業所は建設業が最も多いが、従業者は製造業が最も多く、次いで運輸業となっている。

●五霞町を取り巻く時代の潮流の整理

- ・人口減少など社会変化に伴う時代の潮流。
- ・災害・エネルギー・ICT*の発展など環境の変化に伴う時代の潮流。

●各種アンケート調査結果の整理

- ・「現在の五霞町」をイメージする言葉《住民・中高生・職員・WEB(参考)の結果比較》
「のんびりした」、「自然な」、「のどかな」が五霞町をイメージするキーワード。
- ・「将来の五霞町」をイメージする言葉《住民・中高生・職員の結果比較》
「居心地のよい」、「快適な」が五霞町の将来をイメージするキーワード。
- ・住民では「あまり幸せではない」と「幸せではない」が「とても幸せを感じる」よりも多い。
- ・住みやすさ(「住みやすい」+「とても住みやすい」)は住民 3 割弱、中高生 4 割強となる。
- ・住民では前回調査で 5 割近かった「ずっと住み続けたい」が、今回調査で約 3 割と減少している。
- ・近隣市町に居住する住民の五霞町の認知度は「知っている」が 7 割弱程度ある。五霞町との関わりは「新 4 号国道を車で通過したことがある」が最も多く、次いで「道の駅ごかに立ち寄ったことがある」となる。
- ・近隣市町に居住する住民は五霞町に対して「訪れてみたい」と思う割合が 3 割程度である。その理由は「道の駅に行ってみたい」、次いで「自然が豊かなまちだから」の順である。
- ・事業所においては、事業活動を行う上で五霞町のメリットは「交通・運輸の利便性」、事業所の立地条件として「良いと思う」が 5 割であるが、前回と比べて 1 割減少している。

●ワークショップ*実施結果の整理

(SIM-GOKA-MACHI 2030)

- ・全チームが選択した事業は、健康福祉に関する事業、都市計画の整備事業、観光開発事業。

(もし五霞が 100 人の町だったら)

- ・人口減少・高齢化が進んでも、関係人口や様々な場面で活躍する高齢者を増やし、住民が家族のように助け合うコンパクトで、「農業」と IT や AI*を活用した「ハイテク産業」という 2 つを併せ持つ新しい価値観に期待。



課題の整理

Point1 持続可能性に関する課題

- ・縮小化が見込まれる人口規模への対応
- ・災害などに対する復元力・回復力（レジリエンス*）への対応
- ・効率的な都市づくりへの対応（環境負荷・財政負担などへの対応）
- ・新たな技術（ICT*など）への対応

Point2 住民が暮らす土台づくりに関する課題

- ・都市インフラの適正サイズ化・適正水準化への対応
- ・市街地と非市街地の土地利用，中間的な土地利用における規制・誘導のあり方への対応
- ・都市と自然との調和への対応
- ・住まいの場と働き（産業）の場の共存への対応

Point3 住民の暮らしに関する課題

- ・高度化する福祉ニーズへの対応
- ・地域やライフスタイルごとに異なる行政のサポートニーズへの対応（教育・福祉分野）
- ・より便利に，より快適に，より安全安心なまちづくりへの期待

Point4 住民が属する社会の仕組みに関する課題

- ・「量的な満足」から「質的な満足」への変化
- ・行政主導型から協働型への転換
- ・変容する地域コミュニティへの対応
- ・広域化する生活圏への対応

Point5 行政マネジメントに関する課題

- ・新たな法律や制度などの活用
- ・他分野の行政施策との連携
- ・広域的な近隣市町との連携

まちづくりの重点化に向けた視点

活力あるまちづくりの視点

時代の潮流に乗り，まちの課題解決と新たな付加価値をつけ，マイナスをプラスに変える戦略で打ち勝つ必要がある。

キーワード

- ・Society5.0*時代に対応する
- ・面（基盤整備）と軸（道路整備）の充実を機会と捉える
- ・職住が一体となった居住環境を創出する
- ・外部とのネットワーク*の枝葉を増やす
- ・内部の協働のネットワーク*の網目を細かく張りめぐらせる
- ・様々なニーズにあった住宅開発の適地
- ・障害のある方や外国人の暮らしを支える総合的なサポート体制をつくる

持続するまちづくりの視点

リスクを予測し，住民の暮らしを守るという行政の役割を認識し，セーフティネット*の網目を細かくする必要がある。

キーワード

- ・まちの環境を人口に見合う状態にする
- ・まちの仕組みを人口に見合う状態にする
- ・行政コストの最適化を図り効率的な公共サービスを行う
- ・弱者に配慮した優しい行政を維持する
- ・地域住民の力を“てこ”に福祉の充実を図る
- ・知恵やアイデア，資金，技術を町内外から取り込む
- ・性別・年齢・国籍問わず誰もが知り合いになり，みんなが助け合う
- ・みんなで災害への備えを行う

